

施策項目 15

不登校児童生徒への支援の充実

施策の方向性 ～10年後を見据えて～

- 学校において、子ども同士の良好な人間関係が構築されるとともに、子どもと教員との信頼関係が構築され、全ての子どもにとって安心感と充実感が得られる魅力ある学校づくりを推進します。
- 各学校において、校長のリーダーシップの下、教員がスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、教育相談体制の充実を図るとともに、不登校の子どもたちを組織的・計画的に支援する体制整備を促進します。
- 不登校の子どもたちへのきめ細かな支援を行うため、アウトリーチ型支援*の実施を含む不登校支援の中核となる教育支援センター*の設置促進や、学校と教育委員会、関係機関、フリースクール等の関係団体との連携を強化し、子どもたちへの多様で適切な教育機会の確保に努めます。
- 各学校において、不登校や感染症の回避のために登校しない子どもたちへの支援のため、1人1台端末を活用し、オンライン授業等による学習支援やカウンセリングを実施するなどして、ICTを活用した適切な支援を推進します。

主な取組

- **魅力あるより良い学校づくりの推進**
 - ・ 自己存在感を与え、共感的な人間関係を育成し、自己決定の場を与える教育活動の充実
 - ・ いじめや暴力行為への毅然とした対応、教員の体罰等への厳正な指導の徹底
 - ・ 学習内容を確実に身に付け、学ぶ意欲を高める指導方法や指導体制の一層の工夫改善
 - ・ 子どもたちが主体的に取り組む共同的な活動を通して、互いに活躍する場面を作る「絆づくり」の推進
- **不登校の子どもを支援する体制の強化**
 - ・ 就学・進学に伴う学校間での情報共有や進級に伴う校内での引継ぎも含め、学校、家庭、関係機関との連携による「児童生徒理解・支援シート*」の作成と継続的な支援の推進
 - ・ 予兆への対応を含めた初期段階からの教育相談の実施等による早期対応の徹底
 - ・ 自己有用感や社会性を高めるソーシャルスキルトレーニング*やピア・サポート*、アサーショントレーニング*など教育心理プログラムの推進
 - ・ 学校へのスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの派遣を拡充するとともに、対面でのカウンセリング等の機会の充実や、教員と連携を強化できる体制を整備
 - ・ 「子ども相談支援センター」での24時間対応の電話・メール相談、SNSを含むICTを活用した相談窓口の利用促進

関連する主な SDGs の目標



○ 多様で適切な教育機会の確保

- ・ 市町村による教育支援センターの設置及び学校と教育支援センターの連携による訪問支援などの取組の拡充を促進
- ・ 教育委員会・学校とフリースクール等の民間団体との連携によるきめ細かな支援の推進
- ・ 不登校の子どもたちへの支援に向けた児童生徒理解の深化を図る教員研修の充実

○ ICT を活用した適切な支援の推進

- ・ 学校と家庭を結んだオンライン授業や、ICT を活用した学習教材の提供など、個に応じた学習機会の確保
- ・ 1人1台端末を活用し、教員やスクールカウンセラーによるオンラインでのカウンセリングなど、個に応じた教育相談機会の確保



- ・ SNS など ICT を活用した相談窓口の利用促進
- ・ オンライン授業など ICT を活用した学習機会の確保
- ・ オンラインカウンセリングなど ICT を活用した教育相談機会の確保

【推進指標】

指 標	現状値	目標値(R9)
児童・生徒会活動を通じて、人間関係や仲間づくりを促進した活動を実施している学校の割合	小 89.8%, 中 91.5% 高 97.7% (R3)	100%
「児童生徒理解・支援シート」を作成し、家庭、関係機関等と連携し支援している学校の割合	小 80.7%, 中 92.8% 高 92.4% (R4)	100%
学校及び教育支援センターやフリースクール等において相談・指導や支援を受けた児童生徒の割合	小 79.6%, 中 77.7% 高 93.8% (R3)	100%
不登校の子どもに対し、オンラインによる学習指導や教育相談を実施している学校の割合	小 44.0%, 中 49.6% 高 77.9% (R4)	小・中 90.0% 高 100%

生徒指導・学校安全課



担当課 HP

●アウトリーチ型支援

学校と教育支援センターの連携による訪問支援や学校と家庭を結んだオンラインによる学習支援・相談対応など、支援が必要であるにも関わらず手が届いていない人に対して積極的に働きかけること。

●教育支援センター

不登校児童生徒の社会的自立に資するため、集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善のための相談・指導を行う施設。

●児童生徒理解・支援シート

学級担任や養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等が連携し情報を共有するとともに、児童生徒や保護者との話し合いを通じて一人一人に応じた支援策を取りまとめたシート。

●ソーシャルスキルトレーニング

友人関係を円滑に進め、維持していくための能力（ソーシャルスキル）を高めるため、児童生徒が仲間との適切なやりとりを学ぶ学習活動。

●ピア・サポート

児童生徒の社会的スキルを段階的に育て、児童生徒同士が互いに支えあう関係を作るための活動。

●アサーショントレーニング

他者との関わりをより円滑にする社会的行動の獲得を目指す主張訓練活動。